

「新たなアイデアによる新たな事業展開」のご提案

- ① 音構成員
- ② 鈴木構成員
- ③ 中森構成員
- ④ 日本放送協会
- ⑤ 文化放送・東北放送・毎日放送・日本民間放送連盟

【①音構成員】

「新たなアイデアによる新たな事業展開」に関する意見について

上智大学
音 好宏

以下の通り意見を提出します。

【ラジオの更なるWebとの連携について】

大規模災害時や緊急時において、ラジオ放送のWebにおけるIP
同時配信を円滑に実施するための環境整備を行うべきではないか。

以上

受け手側の強靱化について

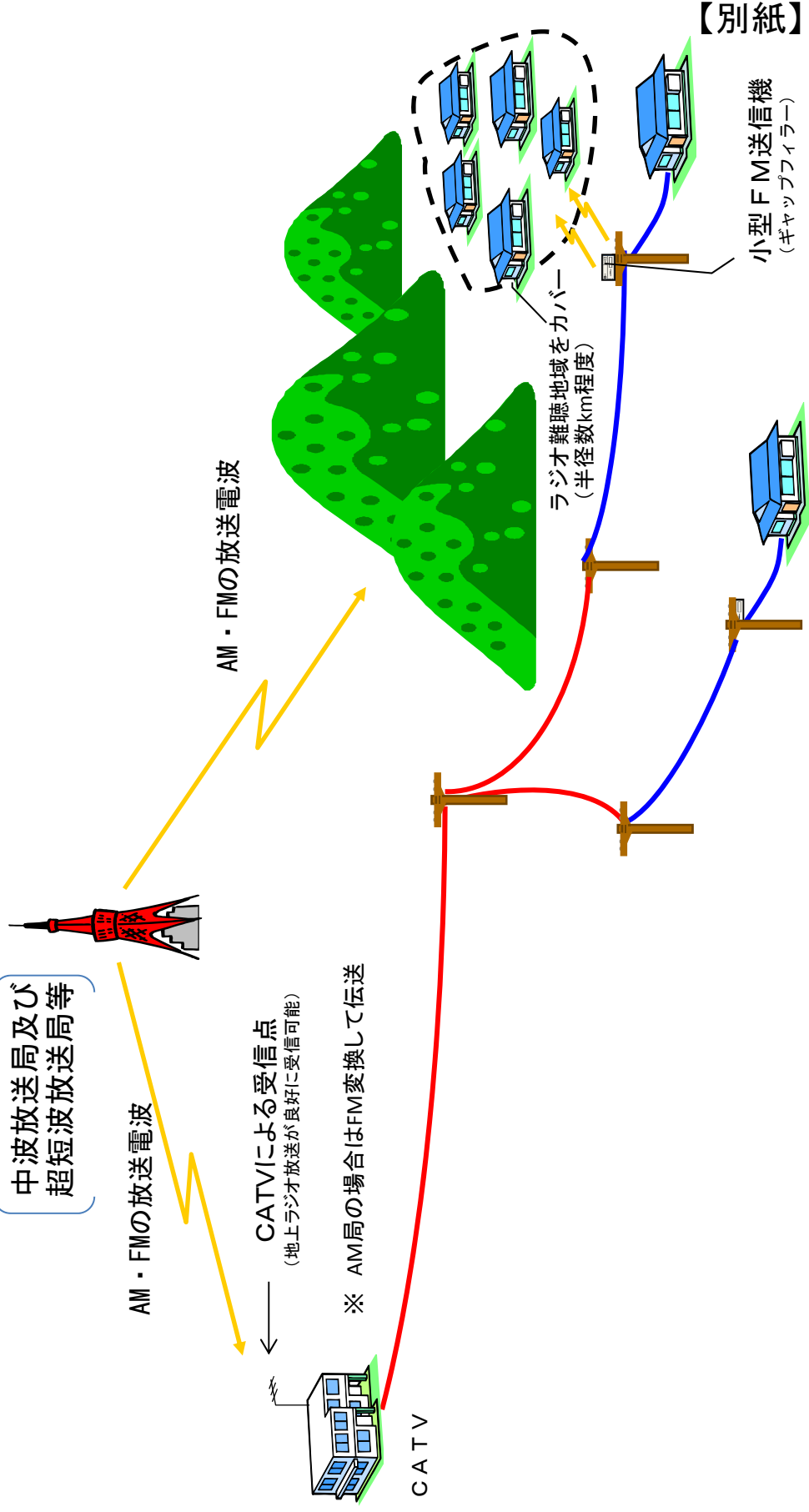
- 放送の強靱化には、送り手のシステムや制度のみならず、受信者側の強靱化も考えておくべき
 - 東日本大震災の被災地では、発災後しばらくパケット通信もままならずラジオだけが頼りだったことを想起すべき
 - 停電や、インターネット・携帯電話網の輻輳(ふくそう)時でも、家庭と職場におけるラジオや地デジの音声情報の受信環境だけは確保する
 - 公的機関(公民館, 児童館, 学校, 事業所等)へのラジオ(含む貸出し用)と乾電池備蓄の促進
 - 超長期にわたって保存できる乾電池の開発も極めて重要(現在の乾電池は長期保存に問題があり, 長期備蓄は困難)
 - ラジオへの若者引込み(ラジオへの意識付け)の促進
 - インターネットへの対応を強化する等により, 日常「ラジオ」に触れる機会を増大し, ラジオへの意識を高める努力を促進

ラジオを例とした受信側強靱化方策例の提案

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ ラジオの環境変化対応 <ul style="list-style-type: none"> ■ FM帯域拡張がありうるならば, 周到な事前準備を図る ■ ケーブルテレビによるラジオ音声の各家庭への配信に加え, 伝送路の途中に設置する小型FM送信機による再放送の実現(技術的検証が必要)【別紙】 ■ 各種ラジオへの地デジTV(ワンセグ)音声受信機能の組み込み(昔のラジカセではテレビの音声を受信可能だった) ■ ワンセグの副音声によるラジオ放送の再放送 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 非常用ラジオの普及促進 <ul style="list-style-type: none"> ■ 発電装置内蔵ラジオや, 少数の電池で長時間利用可能なラジオの普及を図る <ul style="list-style-type: none"> ■ JSTの理科理解活動や, 学校教育(中学の技術・家庭科, 高校の家庭科等)との連携によるキット手作りによる普及等も一案 ■ 通常の家計用ラジオへの超省電力モードの組み込み ■ 非常時は懐中電灯等との複合機よりも単体ラジオが案外便利(普段使いしておくためにも有利) |
|--|---|

ラジオ放送と他メディアとの連携のイメージ

○ ラジオの難聴解消の新たな方策として、ケーブルテレビ事業者がラジオ音声を各家庭に配信することに加え、配信する途中に小型FM送信機(ギヤップファイラー)を設置し、無線による再放送を行うこと等も検討すべきではないか。



災害時にコミュニティ放送を活かすための課題

◎災害時においても、日常から接しているメディアから情報を収集する傾向がある。

→コミュニティ放送の存在を、日ごろから単に周知させるだけでなく、「**実際の災害時にどのような放送や対応が行われるのか**」について住民が理解できるように努める。
→臨時災害放送局は、可能であれば、**事前に、どの周波数で、どのような放送を行うのかについて周知**させておく。

◎広域エリアのマス・メディアでは難しい対応がある（**狭域エリアのコミュニティ放送に求められる対応がある**）。

→情報の整理と送出。マス・メディア、インターネット等各方面から情報が発信される。そうなると、情報の発信元も情報の数も多くなり、それらの情報の中から、その地域に必要な情報を得ることや、その情報にたどり着くことが難しい。大量化した情報から、**その地域に必要な情報の選択や整理をすること、その結果を地域の住民に伝えることが必要**となる。その役割をコミュニティ放送が担うことができる。

◎災害時に放送を継続することが難しいことがある。

→電源、機材、人員などが災害時に確保できるような予算措置やバックアップができる体制を整える。

平成25年5月

「ラジオと他メディアとの連携のアイデア」について

- NHK インターネットラジオ「らじる★らじる」の法定化（ラジオとインターネット）
ラジオが聞こえにくい状況の改善に資する手段としての有効性を検証する目的で、総務大臣の認可を得て、期間限定で、試行的に実施中。
手段として有効であると考えてるので、NHKの業務として恒常的に実施できるよう、放送法での法定化を希望。

- NHK オンデマンド・ラジオアーカイブス（ラジオとVODサービス）
利用者負担でアーカイブ番組を視聴できるNHK オンデマンドに、ラジオ番組のラインナップを充実。ラジオ番組は古いものも比較的よく保存されているので、権利処理の課題はあるが、収支をとれる見込みが立てば、実現は可能。

- ハイブリッドキャストサービスで、インターネットからのラジオコンテンツも利用できるようにする。
（ラジオとハイブリッドキャスト）
ハイブリッドキャスト受信機の対応状況に応じて、
スポーツ中継など、テレビと同時にラジオでもナマ中継しているものがあれば、映像・データはテレビ・タブレットで、音声はラジオのものを楽しむようなハイブリッドなサービスも可能
（ラジオの方が描写が詳しいという特徴がある）。このほか、ラジオアーカイブスとの連携利用も考えられる。

【⑤文化放送・東北放送・毎日放送・日本民間放送連盟】

平成25年5月

ラジオの活性化に向けた他メディアとの連携アイデア

文化放送	三木明博
東北放送	一力敦彦
毎日放送	小川輝範
民放連	木村信哉

1. コミュニティFMとの連携拡充

- ◎ 災害発生時の情報共有と災害報道における連携、番組制作連携
- ◎ きめ細かな地域情報の集約と発信

2. ケーブルテレビとの連携拡充

- ◎ ケーブルテレビのネットワークを利用したラジオの同時再放送
- ◎ 災害発生時の情報共有と災害報道における連携、番組制作連携
- ◎ 共同番組の制作、共同イベントの開催

3. インターネットメディアとの連携拡充

- ◎ インターネットラジオ（ストリーミング配信）
- ◎ IPサイマルラジオ（radikoなど）によるサイマル放送
- ◎ YouTube、Ustreamなどへのコンテンツ提供
- ◎ ソーシャルメディアを利用した番組制作

4. テレビやCS放送との連携拡充

- ◎ ラジオ発のコンテンツのマルチユース、テレビコンテンツのラジオ利用
- ◎ スポーツ中継等の同時もしくはリレー形式などによる放送
- ◎ 共同イベントの開催

5. 異業種との連携拡充

- ◎ 日本フランチャイズチェーン協会との協定締結（大規模な地震発生時に、コンビニエンスストア等が常備しているラジオで情報提供など）

以上